

表題：第3回瑞穂町の協働を考える会議 概要

- 1 日 時 平成25年7月23日（火曜日） 18時10分から20時20分
- 2 場 所 町民会館第1会議室
- 3 出席者 （構成員） ※敬称略
飯田弘、榎本和己、加戸佐織、香取幸子、川口尊、古宮郁夫、近藤隆幸、
野本多恵子
（事務局）
住民部長田辺健、地域課長大井克己、地域課地域係長友野裕之、
地域課地域係主任福島聡
- 4 欠席者 清水久央、中沢清
- 5 議 題
 - 1 策定スケジュールについて
 - 2 ボランティアについて
 - 3 協働宣言の策定に向けた自由討議（2回目）
 - 4 その他
- 6 配付資料
 - 1 次第（当日配付）
 - 2 協働宣言策定スケジュール（A～D）（当日配付）
 - 3 第2回瑞穂町の協働を考える会議まとめ（事前配付）
 - 4 ボランティアについて（事前配付）（事前配付）
 - 5 瑞穂町町民意識調査報告書〔概要版〕（事前配付）
 - 6 数字で見る西多摩（事前配付）
 - 7 瑞穂町町内会加入率一覧（事前配付）
- 7 開会
座長
- 8 あいさつ
住民部長
- 9 議題
 - 1 策定スケジュールについて

前回会議において、事務局が示したスケジュールについて、日程的に厳しいのではないかという指摘があったため、素案を作成した後に意見公募を行うのか、素案の作成段階で意見公募を行うのかといった意見公募の時期や、議会への説明を素案完成の報告とするか、素案作成段階の経過報告とするかなど、パターン別に4つのスケジュール案を改めて作成し、会議においてお示ししました。

【結論】

意見公募をする前に、会議の内容を周知するため、町のホームページに過去の会議内容を掲載すること、また、ホームページをご覧になった方から意見が述べられるような場を作ることとしました。

スケジュールについては、素案ができてから意見公募するのでは内容を変えに

くいつか、ある程度素案ができてからでなければ公募しても意見は出ないのではないかなど双方の意見があるため、改めて調整することとしました。

2 ボランティアについて

事務局からボランティアについて一般的な定義について説明しました。

3 協働宣言の策定に向けた自由討議（2回目）

前回に引き続き自由討議を行いました。今回は主に、前回のまとめを見た感想や各自が考えるボランティアについての自由に意見を交わしました。

※自由討議の中で出た意見を以下のとおり概要をまとめました。

現 状

- ・ 意思決定とここでいうボランティアが担い手となって構築する部分で、協働というのがどういう範囲に入ってくるか。
- ・ 町内会は福祉施設と防災協定を結んだりもしているが、災害時には動けない人もいたりして、他とは違うような動きをしなければならない地域もある。
- ・ 財政の状況であるとか地域性であるとか、また、日本には資材は町からもらって道路の舗装工事とかを住民が労力として出て行くという村もある。瑞穂町はそこまでまとまってできるか。
- ・ 町と町民というのは一番太い骨でありその中には様々な分類があるが、町を外してみるとどうか。町を外すとどんな協働があるのか、町民と町民の協働はないのか。様々な地域の問題、教育の問題とか無限に出てくる。
- ・ 協働の芽は存在しているが、それをうまく汲み上げていないのではないか。
- ・ 町民の方はなかなか町の財政状況とかは分からない部分があるし、職員も町民の方のことを良く分かっていない部分もある。

協働の主役

- ・ 協働におけるボランティアの位置づけでは、福祉や介護で困っている方へのボランティア活動とそれとは違う活動の中でのボランティアとの線引きがあるのではないか。線引きすることで、それほど困ってはいないが手助けが欲しいということについて協働の部分でのキーワードとなってくるのではないか。例えば、隣で困っているなら助けてあげようとかである。
- ・ ボランティアのキーワードの中から、志願兵という言葉が良いのではないか。そこでの働きについて責任もあるだろうし、自分のやりたいという気持ちが表されているのではないか。
- ・ 町と町民が何かをやろうとした時、町民には日当が出ない。
- ・ 「私が思うボランティアはこういうものだ」ということを知り合うことがとて

も大事ではないか。

- ・ 消防団はボランティアだが、非常勤公務員という立場で身分が保証されている。気持ちが前面に出ていて、統制のとれた町の中でも他にないような団体である。それぞれが誇りを持っており、自信を持って入団をお勧めできる団体である。
- ・ ボランティアは、私のためにやる、ということである。
- ・ 有償無償など、ボランティアの中でもカテゴリーがあると思う。例えば、消防団など有償の部分と、やりたいことやっている方や地縁的な繋がりということで町内会があるが、これらは無償の部分である。
- ・ 「自分のためになることは間違いなく他人のためにもなっているはずである」という信念を持っている。
- ・ 有償無償より、ボランティアの心はどこにあるかということが問題である。
- ・ 情報特派員も、いつも視野を広げ、様々な人と出会い、そういうことにより自分の人生が豊かになっていく、ということをやっている。
- ・ 少なくともこれだけやるとこれだけもらえるという思いでボランティアをするのも間違っていないと思う。
- ・ ボランティアというのは自分の思いの表現ではないか。
- ・ ボランティアに携わる一人ひとりの気持ちの問題である。
- ・ ボランティアという言葉はとても綺麗で、それをしていることでいい気持ちになりすぎている場合があるのではないか。
- ・ 有償無償どちらもありなのではないか。
- ・ 頼まれてやるのではなくて、自分がやりたいと思ってやることだと思うので、「私がやります。」と手を上げてくれるかどうかである。
- ・ 地域貢献であるとか、困っている人の役に立つということではないか。
- ・ ボランティアをすることに喜びを感じ、そこまで深く考えず、楽しくて喜んでもらえるのがうれしいということではないか。
- ・ 自分の好きなことで他人と楽しむということがボランティアであではないか。

協働によるまちづくり

- ・ (社協のサロン活動を例に) 地域の一人暮らしの人とかに寄ってもらって誰かが1回でも話ができる場所になれば良い。
- ・ 誰かの耳に入ったらそれが町民の方に伝わり、いいまちづくりに皆が参加してもらえるようになれば良い。
- ・ 地域の特性であるとか、どれだけそこに住んでいる人たちが意思決定し、住んでいるところを良くしていくんだとか誇りの持てる町にしていくんだとかそういう意識が重要である。
- ・ 協働にはボランティアが深く関わっているのではないか。
- ・ 町民意識調査の中に「自立自助の意識を持つ」というのがあったが、これが策

定する上でのキーポイントではないか。災害時も災害時要援護者の問題も取りざたされたりもするが、弱者への配慮を忘れてはならないという中で自立自助の意識を持つことが大切ではないか。

- 「協働」を「共生」という言葉に置き換えると少し柔らかくなるのではないか。
- やる側とやらされる側が出てくる中でも、やらされるという考えが生まれにくいように話し合いであるとかそういった場を設けるとか、そういう部分がひとつの協働ではないか。
- 前回のまとめに「積極的にできることを言えるようなまちづくりをしていく。」というようなことが書いてあるが、いろんな得意とする分野を大切にしてあげることが大事であり、また思っているだけではなく、出していくことが大事である。
- 皆ができるようにしていくこと、また、自分が好きなことをやってそれを皆が認め合ってやっていくことがすごく大事なのではないか。
- (仲間や賛同者と開発したという水力発電を例に) 役所の手続きであるとか法律的な知識であるとかうまく繋がってくればそういう話もすごく進んでくるのではないか。
- 行政と町民だけではなく、そこに住んでいる者同士が何かしようとした時に、それが社会性、公共性があることであればそれがうまく絡み進んでいく。
- 行政の専門的な知識と一緒にうまくできるような仕組みというか、協働をしていく上で、ボランティアが地域の部分を動かしていくとすると、ボランティアの活動というものが協働に繋がっていくのではないか。
- ケースバイケースだと思うので、すごい小さなことでもできていくことが第1歩ではないか。
- 隣近所が集まって、自分が歩ける範囲で集まって賑やかに話したり笑ったりして、所々にそういう人たちが集まって話ができる場ができて、元気なお年寄りがいつまでも自分の町で暮らせるようになっていければ良い。
- 引きこもってしまう人が多い中で、「お茶でも飲みに来ない。」と声を掛けられるような人間関係ができていければ良い。
- 「誰かが気にしてくれる」、「自分は一人ではない」という思いができるような町になってもらいたい。
- 町からいろんな情報を聞き、町に色んな状況を聞いてもらいたい、そういうことをできることが大事である。そのためにも、町民にも積極的に顔を出してもらいたいし、職員もボランティアなど住民の中に飛び込んで行って欲しい。
- (B級グルメを例に) 採算等は抜きにして結局は地場産業だとかいう地域の産業とか経済面の波及効果とかですよね。採算が出てくれば町の財政もよくなるとかそういう繋がりの部分も出てくる。
- 町の数値、歴史、地理など同じレベルでもっと共有していくことが重要である。そのことは、瑞穂町らしい協働にしていくためにも大事である。

4 その他

事務局から、次回の会議に瑞穂町の郷土や歴史についての講演を提案しました。